

# 会員交流会(化学・材料グループ)開催

## 「翻訳や海外展開での課題(苦労していること)」

会員交流会(化学・材料グループ)が12月10日に住友クラブで開催されました。当日は12名が参加し、「翻訳や海外展開での課題(苦労していること)」をテーマに、グループリーダーの河野広明弁理士の司会で論議されました。

はじめにアベノミクスによる円安(1\$80円から120円に50%アップ)が各会員企業の業績や外国特許の出願と維持の費用に与える影響について、次いで翻訳についての実情や苦労について、さらに海外展開との関係について議論されました。概要を以下に記します。

化学・材料関係の企業に及ぼす円安の影響に関しては、

- ・原料は輸入に依存しているため、全メンバー企業で原料費がアップ。しかし損益に関しては、輸出比率や製品値上げの難易に関係し、過去最高益の企業から減益の企業までさまざま。
- ・外国特許の出願と維持の費用に関しては、費用管理をしている企業と管理していない(「急激な円安で費用増」と理由を言えばよい)企業とがある。為替の影響よりも係争による費用増加の効果の方が大きいとの意見があった。
- ・海外関係の請求書を代理人から受け取るタイミングに関して、何カ月以内と管理している企業と年度内ならいつでもよいとする企業とまちまち。
- ・外国企業から見ると円安で日本特許は割安になる。しかし日本市場の魅力が少ないため、中国、米国に次ぐ三番目の出願国として日本は欧州と韓国と競争。日本は微妙な位置との指摘。

翻訳や海外展開で苦労しているところに関しては、

- ・どこ(日本代理人、日本の翻訳会社、現地代理人)に依頼するのか？
  - ・例えばタイなら、どの特許事務所が良いか、情報が欲しい。
  - ・英訳を社内でチェックするか、しないか。また、誤訳について、どんな防止方法をとっているか？
  - ・誤訳が原因で損害を被った場合の責任はどこにあるのか？
  - ・翻訳ソフトのレベルは？ その活用による翻訳の内製化は可能か？
  - ・日本語では助詞等で曖昧に表現できても、英訳する場合は一つの前置詞になるので要注意。
- 参加者は他社の現状が分かり、河野弁理士や知財担当の意見が聞け、参考になったようです。

【次回の予定】 両グループ合同(電気・機械と化学・材料):3月4日(水) 14:00~17:00

テーマ:「異議申立への対応」

なお、電気・機械グループは、1月14日(水) 14:00~17:00に、「出願届出や譲渡証、外国出願問合せ等、発明部門などへ問合せをする際の様式」に関して各社からの紹介と議論の予定です。

※会員交流会には、いつでも参加できます。ご希望の会員は当協会の事務局にご連絡ください。